



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

29

國家圖書館出版社

六月四日

六月三日



國家出版基金項目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館
編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

29

國家圖書館出版社

第二九冊目錄

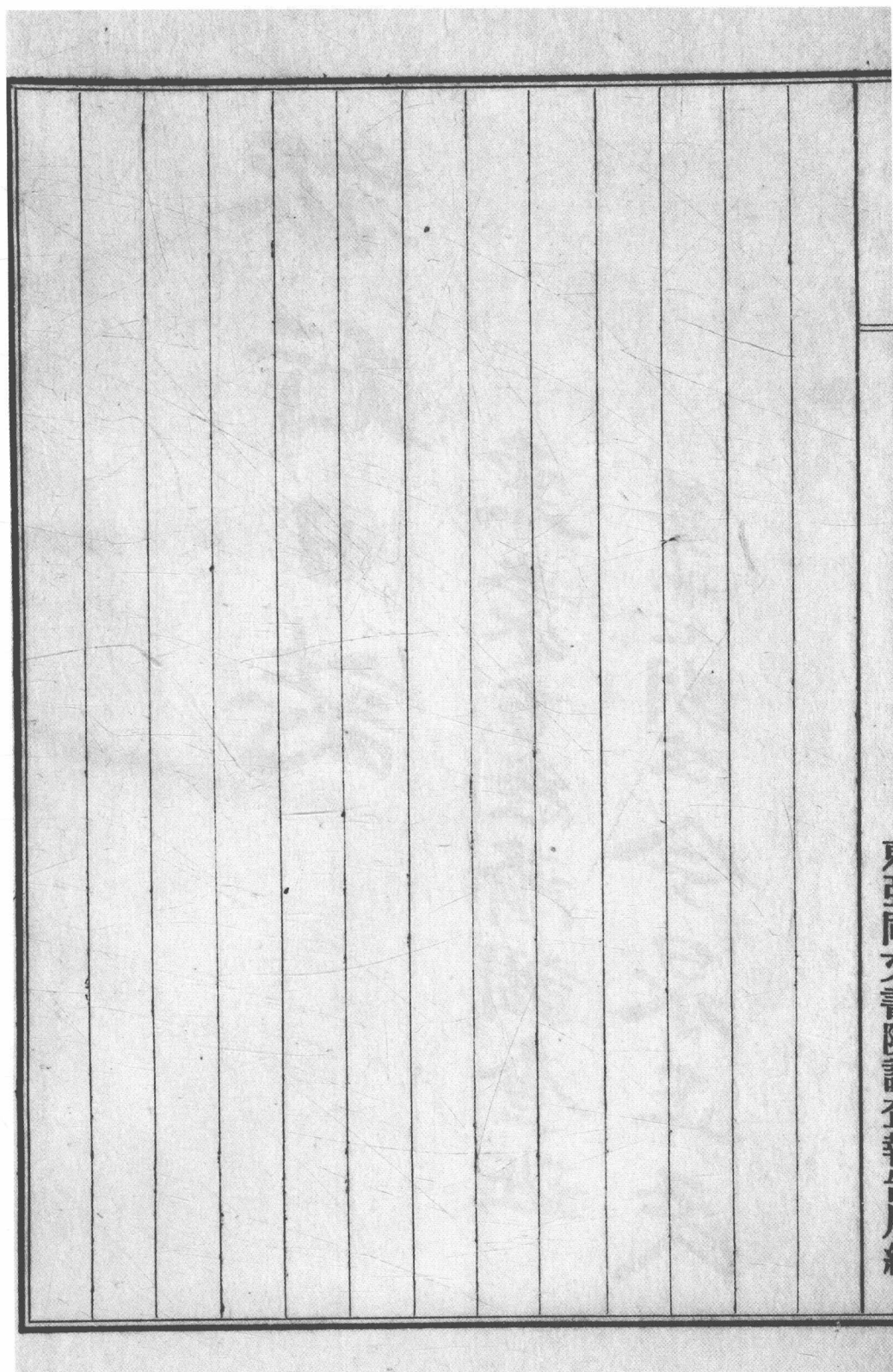
昭和五年（一九三〇）旅行日誌（第二十七期生）

今泉正民	第二十六卷		一
水沼博	第二十七卷		一三九
竹岡彥次郎	第二十八卷		一九一
前田進	第二十九卷		二八五
中島弘	第三十卷		三三一
町野大輔	第三十一卷		四四九
淵邊元廣	第三十二卷		四八五
池田靜夫	第三十三卷		五一七
徳岡照	第三十四卷		六三一

旅行日誌

東蒙古經濟調查班

第七期生 今泉正民



凡例

- 一 本稿ハ昭和五年五月三十日ヨリ七月十五日ニ至ル間院會ヲ帶ビテ東蒙、北滿地方へ修學調査旅行ニ止レル折ノ日誌ヲ綴レルモノナリ。
- 一 修學調査旅行中ニ於テナセル調査ハ別ニ纏ナデ一卷「東蒙古ニ於ケル鑛産素調査」ヲ作成セリ。

昭和五年十一月

今泉正民

~~經通地~~

~~上海~~

~~青島~~

~~天津~~

~~北平~~

~~唐山~~

~~平泉~~

~~——~~

~~赤峯~~

~~由魯~~

~~白音~~

~~鄭家~~

~~——~~

~~北南~~

~~昂~~

~~齊~~

~~哈爾~~

~~哈爾~~

~~奉天~~

~~——~~

~~大連~~

~~(解散)~~

上海東亞
圖書館
圖書印

調查旅行日記

第二十六卷 調查旅行日記

五月三十日 (金) 晴

上海

午前七時學生、鮑烈十送別、拍牛襪二枚、肉、山菜入。生、筍八

本	日	根	加	江	市	橋	本
東	清	岩	藤	下	藪	本	水
一	正	老	隆	清	宣	義	正
民	嗣	彦	徳	一	三	雄	民

最初漢口より平漢線より北平へ行く予定ナリシハ
ハ平漢線通過ヲ許サズ。已ニ無ク予定ヲ変更シテ海路青
島經由天津ニ回ッストナル。

我等ノ乗船大連汽船柳丸ハ午前九時出帆。先輩、縣人等
共、是送リヲ受ク。

柳丸ハ音ニ聞クホリ船長。三等船室ノ須瀆ナル事。

平穩ナル黄海ノ海、船ハ一路青島ヘト進行ス。

子供ノ泣声、尤ノ騒音、船中ノ夜ハ騒ガシイ。旅行ノ準備
ノ爲此數日間ハ十分睡眠カトシテ居ナイノヲタツスリ寐止ム。

五月三十日(土) 青島

青島看

三疊敷位ノ狭イ船室ニ大ニ七人カゴロ寐トハ案ニ窮屈。七時頃
一同起床シテ朝食。昨日ハアンナニ晴シテ居タガ今日ハ曇リツテ

了ッテ雨が今ニ降リソウナ天気。然シ相尋ラズ平穩ナ航海。
十時頃ニモト青島ラシイ陸が見ル。舷ヲ展氣樓ノ様ニ浮
ビ出タハ青島市街ノ遠望ナリ。

突然船中ニ騒ガ初ナリ。船ハ停船シタ。青島埠頭ヨリ十哩ノ
沖合ナリ。船客同ハ一算船客遊歩甲板ニ整列。簡單ナル
後曳更ノ校閲アリ。船ハ動カ初ナリ。埠頭迄尙一時間ヲ要スル
ナリ。青島ハ赤イ屋根ノ連鎖ナリ。左ノ氣分ヲ脱シタ地拔ケ
ノ多町ナ。名國ノ軍艦ガ何隻トナリ停泊シ居ル。時習柄左那
軍艦ニ見ル。斯ニナ流ナ軍艦ガ支那ニ有ルハト不意儀ニ感ゼラ
ル。因エナリ柳林ノ第一碼頭ニ横付ニナリタ。折シテ降リ来ッタ所。
固メン青島ニ降雨ハヤナリナカ。會帽ノ雨ナ。因定念青島支
部ニモ自分達が行ウナヲ通知シテ居タ者タワカ出迎人ノ中ニ先
輩ラシイ顔ハ是カヲナリ。任方ナリ。同ハ雨中ヲ自動車ヲ馳ッテ

カウ四カ山、部ヲ承テ西洋料理ヲ具ス。諸シタノハ、時頃タツタ。
其中ニ班長橋本君ヲ覽部来タル。青島國際俱樂部ヲ先輩カ
歓迎會ヲシテ下サ由。ホーイニ案内サレテ俱樂部ニ行ク。

突然タツノ不幹事バカリトテ先輩ハ中村洋行五カ二期生中村順之助
氏岩城お金カ二期生立石善次郎氏、カニ二期生永瀧周達氏
ノニ氏下ツタ。青島生立石善次郎氏花カ咲キ散會シタノカ十時過キ
タツタ。在ノ青島是物ヲ多シ柴田氏宅ニ引下テ就床シタノハ一睡ヲ
過キテ居タ。

有日 (月) 晴

青島滞在

午前九時柴田氏宅ヲ辞シテ海軍協會ニ行ク。協會ニ永瀧氏、今
年卒業ノ福岡氏、ソレ佐々木中學校出身ノ石丸氏ノ三氏カ見エテ居タル。
三氏、取計ラヒテ自動車ニ台ヲ雇ヒ青島市内見學ノ段トナル。

第一ニ行ッたか忠ニ述べた。教備、凡そ其ニ於テ海ノ廣遠ニシヨ
 フニシテウヒケルトルカ知シ。唯松原ハ無イノカ物違フ。又ウ譯人デ
 誤ヒテ居ルカ又居ル。此ニ競馬場有リ。其教備ニ於テ上海跑馬場
 ニ及ビト元其面積ニ於テ違フ後者ノ凌カ感ハ。ソレカウ音ニ聞ク
 海泉跑馬場ノ身跑馬、忠ニ述べ、ト目録馬身當時ハ、偶々ニナカデ。ん。
 青島中學前ノ遺跡ヲ青島神社ノ詣ル。立派ナモ宮テ、日曜ナニテ
 参詣人カ多イ。桜咲キレバ、生ナニ是事ナ事カ多イ。一路平安ヲ祈
 願シテ歸シ、青島カウノストニ行ケバ、野球部將ニ遇ナリ。内外務對
 青島中ノ子ナリ。内外務ノ按年ハ、吾等カウノあラシヤ、元氏ナリ。
 内外務ハ、雄勢。晩ハ、一期ノ先輩、増行幸、譯行カ、配人、副島高市氏
 ニ呼ビ、柴田氏カニ引上ケ、ハナハ、路ヲ廻リテ居タ。

五月一日（月）晴

青島電

青島に於て宋三郎と好い日々送に事がおきた。先輩の歓迎、痛快な
柴田氏、自來水、奥棟、青島ノ自然美、我等の幸福をうらなう。

今日の青島を去るに二日。埠頭に日頃航船乗入れの我等が
待つて居る筈だ。色々お話を成りし。御恩の何時迄お忘れ致さ
とト柴田氏に謝礼の述べて御別れする。午前九時、船は正午天津向の
帆を張る。昨日見送る青島名所ノ一、ソレハ青島居半端だ。ん。
海軍士官ニ行つ途中居半端なところだ。先ニ柴田氏より居半端な
配人松井氏ハ紹介状の貸す居る。丁度よい案内の者。血、醒、見、
未だだ。もうそ斯い職業ニ従事おそれるが感心させる。是物後傳の張
ミテ不時海軍士官ニ行つ。班員同集り荷造りの終り碼頭ニ行つ。
船の横着をせし居る。圍へる満員だ。断るに所が無理ニ乗船せし貴方。
午前上陸早ふが愈々帆。同船の官奉班親細直班（吉田、高、
神谷、鶴岡）の諸君が同船に居る。

青島に於て宋三郎と好い日々送に事がおきた。

乗る青島。人情美、自然美。青島ヨ・サウハ！ 我等ハ一路天津へ。
青島影ノ薄キ道我等ハ見守リ其名残ヲ惜ム。崂山丸ハ海水浅キ
爲程ハ高クヤカ動搖甚ダシ。

黄海ノ黄昏。黄海ヨ・敬海ノ船旅。船中ノ極ハ次ヲ更ケテ行ク。

六月三日(火)晴

船中

我等ニ乗ヘシニ却座ハ。ハイワト室ニ高等船員ノ食堂トナリ。
極ハ上ニ客ヲ十分ノ睡眠ヲ取ル事ハ出来テイ。

昨日ハ少シ荒シカ今日ハ動搖セズ。達ク九半ニ其界附近ノ半島が見
エル。時ニ無人島が見エル。白鷺カ飛ガ。案ニ氣持、好イ敬海、船旅ダ。
浮ク島山頗ル興趣ガ足。案外退屈ヒスニ船中ノ一日ヲ送ル。

六月四日(水)晴

天津看

午前五時頃ニ大沽バーニ達スルと言フノ十四時半一同起床。陸ガ真近ニ

見エル。船ヲ東ヨリ先揮ヒ朝日ハ昇ル。水色ニ赤化シテ居ル。大時頃白河
河口ニ達ス。突然耳ヲ破ル銅鑼ノ響キ。検査ヲ。停船シタ。一回簡單ニ
検査ヲ受ク。検査が終ルト船ハ愈々白河遊航トナル。白河ハ所屬ハ二町位。
兩岸ノ民衆ハ泥土ヲ築キテ塔^{トウ}状^{トウ}ノ異ニシテ居ル。

白河遊航ハ瀟湘時ヲ利用セテハナラズ。華山ルニモハ半時回遊延シタ
ノ瀟湘時ヲ待タネハナラナラウダ。河ノ深度ヲ測リナカウ船ハ次々ノニ止
流ヘト。朝風ニ吹ビナカウ船橋ニ立ッタ時見エタ歌ヒ度イ氣持ニ
テ。航行ニ依リ起ル習ガ兩岸ノ其ヲ説ヒナカウ船ノ跡ヲ追掛ケテ来ル
白河ハ一興ナラナリ。天津ニ却ル者ナキ。漸クニ日漸碼頭ニ横着ケ
セタカキ岸上時ヲワタ。

備テ因ツタハ天津ニ第一歩ヲ踏ミシメタモノ、何ウシテヨリ途方ニ暮
レル。仕方ナキ天津回客会支部ノ幹事天津興業株式會社ノ大田
氏ヲ訪レル。大田氏ハ突然ノ来訪ニ面クラレル。當ニ直ニ決意シナキ局